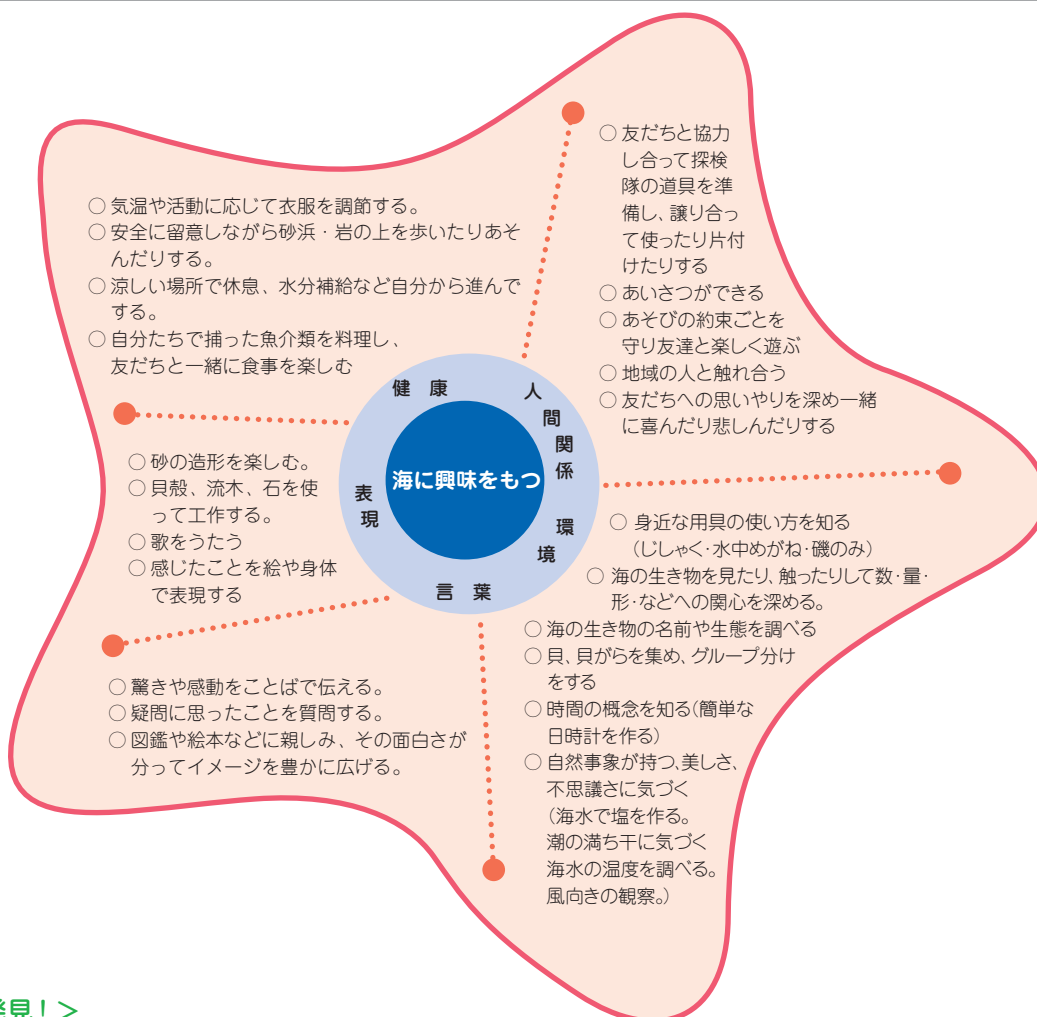


A-8. 「さくら探検隊」 南さくら保育園（宮崎県串間市） <5歳児>

『海』をテーマにした年間計画を立て、子どもたちがこの雄大な自然の不思議さや美しさに驚き、感動する心、「なぜ？ どうして？」と不思議に思い、考える心、また『生きる力を育てる』ために自分で考え行動する力をつけてもらいたい。



<ウニ発見!>

「先生ウニがいるよ!」と、潮だまりにたくさん『ムラサキウニ』を発見しました。手でつかんでも、刺されることなく安心です。しかし、『ムラサキウニ』よりも、トゲの長いウニを発見。図鑑で調べると、『ガンガゼ』という名前で、毒があり危険と書いてありました。海の生き物を、今までは何のためらいもなく触っていた子ども達でしたが、毒があり、危険な生き物もいる、ということを知りました。



「うわぁ、このウニには目があるね。」と、『ガンガゼ』の身体の中真ん中に目を発見しました。また、よく観察すると、ウニにはトゲのほかに、軟らかい足があることにも気がきました。『ガンガゼ』の発見から、たくさんの気づきに結びつきました。『ムラサキウニ』は食べる事ができるんだよと教

えてもらい、早速、磯のみで割り味見をしました。『海水で洗って食べるんだって。』と一度食べた子どもは、自分で潮だまりから『ムラサキウニ』を獲ってきては試



食しています。遊びの中で自然と、食べられる生き物と、そうでない生き物を覚えています。

<潮だまりに潜む様々な生き物たち>

子ども達が海にきて、一番始めに探す生き物は『カメノテ』です。岩の間にはまり込んでいて、手ではなかなか獲ることができません。そのため子ども達は磯のみという道具を使うこととなります。初めて手にしたときはどのように使うのか想像もつかず、ただ『カメノテ』を上から擦るようには使っていました。しかし、回数を重ねるごとに、岩と

『カメノテ』の間に磯のみをはさみ込み、テコの原理のように使うことを自分たちで考え、うまく獲れるようになりました。

できないことも、自分でどうすればいいのか考え、実際に試してみます。それを繰り返す事によって、自分自身で身につけていきます。



人から教えられた事よりも自分で覚えていく事が、より生きる力に繋がっていくと感じられます。『カメノテ』を見つけると、子ども達の興味は潮だまりの中へと移ります。ボールや、バケツを片手に、『ヤドカリ』や『ニセクロナマコ』、『ムラサキクルマナマコ』を捕まえています。「ナマコってぶよぶよしてるよ」「お腹をおすと、おしっこするよ!」と実際に生き物を触って観察しています。波打ち際に『ギンカクラゲ』がたくさん浮いているのも発見し、観察しました。「こんなクラゲはじめて見るよ」と半信半疑でしたが、図鑑でこのクラゲをみつけると、「ホントにいたね」と、新しい生き物にも興味を示していました。



<台風翌日の様子>



(台風前)



(台風後)

「見て先生! 岩の色が違うよ!」台風の後、弓田浜を見に行くと、いつも見なかった岩があることに気づき、驚きました。「この岩はどうしてでてきたの?」子ども達は潮だまりや新しくでてきた岩を観察しています。前日の台風の様子を思い出し、この岩はもしかして、大波に運ばれてきたんじゃない?」「風が強かったから、

岩の上にあった砂が吹き飛ばされたんじゃない?」と自分の思ったことを口に出し、話し合っています。台風という自然現象で、環境が一変することを自分の目で見、より自分たちを取り囲む環境について興味をもってきました。

<遊んだあとは>

自分たちで使った道具(タライ、バケツ、シート等)は、皆で力を合わせて運びます。「疲れた～」と言いながらも、「これ重たいから二人で持とう!」と、人に任せるのではなく、自然に手を差し伸べる姿が見られるようになってきました。自分が大変な思いを体験することで、相手のことを想う気持ちが少しずつ芽生えてきました。



考察

海が近いにもかかわらず、ほとんど磯遊びをしたことがない子どもたち。まずは海を知ることから始めました。生き物、波の様子。好奇心いっぱいの子どもたちは、新しい物を見つけると、抵抗なく触れて観察します。探検を重ねるごとに、疑問に思ったことを調べたり、不思議に感じたことをどのように解決するか自然と身につけ、自分で考え行動するようになりました。そして友達にも教えていく姿が見られました。砂浜を歩くことや、岩山をよじ登ることを通して、自分の身体を最大限に活かすことも体験できました。子どもたちの発見に一つ一つ共感しながら、一緒に疑問を解決することで、新しい発見に繋がる、その喜びをこれからも子どもたちと一緒に感じ体験していきたいと思っています。



ポイント

園バスで5分位のところにある海。近くにある自然環境は、時としてあまりにも当たり前で見過ごしてしまいがちです。海に関わる実践は、どんなにか自然界の不思議さを子どもに感じさせることでしょうか。自分達で考え行動するという子どもたちの姿が見えてきます。